

庄原市立山内小学校 第4学年 図画工作科学習指導案

題材名：カラフルAQUAスポット

日時 平成30年11月15日(木) 2校時(9:45~10:30)
 場所 理科室
 学年 第4学年(男子3名, 女子5名 計8名)

題材について

本題材は、小学校学習指導要領図画工作(平成29年)第3学年及び第4学年の内容 A表現(1)を受け、特に「A造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色など思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。」に重点をおいて設定した。この事項は、発想や構想に関する事項のうち、造形遊びをする活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」について示している。

この題材では、透明な容器に入った色水を並べたり、重ねたりしたり、選択した色を配置したりする造形遊びを行う。その際、透明な容器に色水を入れていろいろな角度から見ることで液体ならではの流動的な動きの面白さを見付けたり、いくつかの色を組み合わせ、配置することで別のものに見立てたり、いくつかの色水を並べ、透かして見ることで色の交わりを感じたりすることができる。また、外から日光が差し込み、置いた色水に当たることが考えられる。日光が色水に当たることで、児童は水の反射を感じたり、色が机に映って見えたりする面白さにも触れることができる。更に、図画工作科であまり利用することがない理科室で活動することで、普段、学習を行っている場所とは違った雰囲気のある場所に行うことができる。また、理科室には様々な用具があり、色水を入れてその用具の形の面白さを感じることも等ができる。本題材は、それらの活動を通し、身近な色水から美しさを感じ取る見方や、色水の入った容器の操作、配置、場所の特徴を組み合わせ活動を考える際の思考力、図画工作科の活動で場所に働きかけることで自分たちが抱えている概念やその場の雰囲気を変えることができるという考え方を児童に育むことができると考える。

児童の実態について

事前の意識調査では、次のような実態が明らかとなった。調査項目は次の通りである。

(7人中)

質問項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
(1) いろいろな材料から思い付くままに活動できる。	5人	2人	0人	0人
(2) 材料のよさを考えて作ったり、活動したりすることができる。	4人	3人	0人	0人
(3) 造形遊びをすると、活動する場所のイメージや雰囲気がいつもと違うように感じる。	5人	2人	0人	0人

本学級の児童は図画工作科の学習に興味、関心が高く、意欲的に取り組める素地ができている。どの題材についても進んで取り組み、材料の特徴を基に活動を考えたり、作品づくりに生かしたりすることができる。個人差はあるもののどの児童も材料から思い付くままに活動することができる。5月に行った様々な大きさの木と麻紐を使った造形遊び「木キッキキ」においても、全員が進んで取り組んでいた。小さな木片を並べたり、結んだりして活動したり、細長い木同士を麻紐で結び付け、蜘蛛の巣のような足場をつくったりしていた。その中で、児童は、材料自体の特徴と、場所に働きかける面白さを少し感じる事ができた。しかし、依然、図画工作科に対し、「何を表していいかわからない。」と苦手意識をもっている児童もいる。

材料である水との関わりは、普段の生活で水を利用したり、夏には体育科の学習で水泳をしたりしており、児童にとってとても身近である。意識せず水を使って遊んだり、水泳のように五感全てで水の存在を感じたりする機会は多い。図画工作科の題材で液体として水を扱ったものは1年生の時の「つちや水となかよし」である。その際は、土を使って何かを作ろうとする活動が多く、水自体を楽しむ活動ではなかった。今年度も、絵の具を使用する際にできる色水に触れることはあったが、それを用いての活動は行っていないため、材料として色水を扱うことは初めてである。

集団としては、仲が良く、互いのよさを認めたり、協力したりできる関係である。そのため、友人の活動を真似したり参考にしたりする児童がいても、素直にそれを認めることができるが、その反面、安易に友人に頼ろうとする児童が多い。

指導にあたって

指導にあたって留意することは、大会テーマに沿って以下のように示す。

心動かし

本題材では色水に意識を集中できるようにするために3つの工夫を行う。1つ目は、用具の工夫である。色水はふたのできる透明なカップに入れ、どの角度からでも見るようにする。これにより、上から覗き込むだけでなく、多様な視点で色水を捉えることができるようになる。また、色水入りのカップを大量に用意することで、様々な試行ができるという期待感を高める。2つ目は、導入の工夫である。本時では、色水を重ね、布をかけて隠しておき、布をとって全員で同時に色水と出会える演出を行う。それにより、児童の興味関心を高めることができる。3つ目は、活動場所の工夫である。活動を進めていくと、光が差し込むことや様々な用具があること等の場所の特徴に気付く児童が出始めると考える。その気付きに対して肯定的に反応し、他の児童へも活動の視点として気付かせるようにする。具体的には、日光が差し込むところで活動させ、操作している色水に光が透過したり、反射したりするようにさせる。日光に当てると色水は様々な角度で光を反射し、美しい一面を見せる。また、日光が色水を透過し、色が机に映ることで立体的に配置した色水の組み合わせが平面的に表れるという新しい見方に気付かせることができる。更に、活動を考える中で、戸棚の中にあるピーカーや丸底フラスコに気付くことも考えられる。その時は、児童が希望すれば使用を認める。そうすることで、児童の意欲は高まり、発想は更に広がって、理科室ならではの多様な実験用具と色水による造形活動が行われる。普段、理科の学習で利用する場所とは異なる雰囲気味わうことができる。それらを考慮し、雨天時、光の透過ができにくくなるため、実験用具に光源装置を加え、用意しておく。

対話し

本題材は、友人、材料や用具・環境、自己と対話でき得る題材設定をしている。

友人との対話は、つくったり、試したりする活動を進める中で、「光を通したら面白いよ。」「いくつも重ねてみると違う色に見えるよ。」など気付きを自然に交流すると予想される。児童間の対話により、色水の重ね方・並べ方が多様になったり、配置の仕方がそれまで以上に複雑になったりすることが考えられる。また、自然と友人の活動を鑑賞し、対話するきっかけをもたせるために、児童の活動を肯定的に評価し、対象の児童以外にもそれが意識できるような声掛けを行う。

材料や用具・環境との対話は、色水自体の美しさに触れることで行われる。大量の色水に囲まれて活動する非日常の空間で、色水を透過して見える美しい世界観を味わうことで色水のよさをより実感することであろう。そのために、本時では、新たな色の色水を作成することはさせず、原則、用意した色水の中で活動するようにさせる。そのように限定することで、児童は、表現できることをより考え、並べ方や重ね方を工夫するようになる。それにより、本題材でねらう見方を育成したい。

価値を知る

自己との対話は、児童が自らの価値を知るために仕組む。具体的には、色水の美しさに触れる中で、身近にあった色水の新たな美しい側面に気付かせることである。そのために、児童の活動に対し、肯定的な声掛けや価値付けを行い、児童が自信をもてるようにする。これにより、児童は自らの表現の価値を感じ、自らの価値に気付けるようになる。また、友人同士で互いの活動について認め合う自然発生的な鑑賞を積極的に取り上げる。これにより、指導者からの声掛け以上に児童は自らの表現に自信をもつことができる。友人から認められたり、価値ある活動と評価されたりすることで、児童は自らの価値に気付けると考える。

更に、本題材の後に、「のびのびタイム」で立体の題材「いろIRO色」を行う。そこで、色水の並べ方、重ね方、配置などの工夫により、水の中の世界を表現させる。その際、本題材で身に付けた見方、考え方を働かせ、児童は自らの感じ方の広がりを実感し、自分なりの価値に気付かせるようにする。

題材の目標と評価規準

<題材の目標>

- (ア) 色水を並べたり、積んだりする活動に進んで取り組むことができる。
- (イ) 色水のよさや場所の特徴に気付き、並べ方や積み方、場所への働きかけ方を考えることができる。
- (ウ) 色水のよさや場所の特徴を理解して、工夫しながら色水を並べたり、積んだり、配置したりすることができる。
- (エ) 色水の色や色の感じ、動き、透過性から感じる面白さ、友人の表現の面白さを感じ取ることができる。

<評価規準>

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
色水を操作して、思い付くものをつくったり、やってみたい活動をしたりしている。	色水のよさや場所の特徴を基に、やってみたい活動を思い付いたり、できそうなことを考えたりしている。	色水のよさや場所の特徴から思い付いたり考えたりしたことを基に、工夫して色水を並べたり、積んだり、配置したりしている。	色水の操作から、色水の色や色の感じ、動き、透過性を感じ、自分や友人の活動の面白さを捉えている。

指導と評価の計画

(全2時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	発	技	鑑		
一	○ 色、色の感じ、動き、透過性などの色水の面白さを感じながら、色水を並べたり、積んだり、配置したりする。 (1時間)《本時1/2》	○	◎			ア 色水を操作して、思い付くものをつくったり、やってみたい活動をしている。 イ 色水のよさや場所の特徴を基に、やってみたい活動を思い付いたり、できそうなことを考えたりしている。	行動観察 発言 ふりかえりカード
二	○ 色水のよさを基に、思い付くものをつくったり、やってみたい活動を考えた後、活動場面の写真を基にふりかえり、自分や友人の活動の面白さを捉える。 (1時間)			○	◎	ウ 色水のよさや場所の特徴から思い付いたり考えたりしたことを基に、色水を並べたり、積んだり、配置したりしている。 エ 色水の操作から、色や色の感じ、動き、透過性を感じ、自分や友人の活動の面白さを捉えている。	行動観察 発言 ふりかえりカード 発言

本時の学習

(1) 本時の目標

意欲的に色水を操作し、色の感じ、動き、透過性などに気付いたり、場所の特徴を考えたりして、やってみたい活動を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

色水を操作して、思い付くものをつくったり、理科室の特徴を生かしてやってみたい活動をしている。
(造形への関心・意欲・態度)

色水のよさや場所の特徴を基に、やってみたい活動を思い付いたり、できそうなことを考えたりしている。
(発想や構想の能力)

(3) 準備物

透明な容器に入った色水3色(赤青黄、各200個)、透明な容器(多数)、雑巾、たらい、光源装置、理科室の実験用具

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 発問等 ◆: 支援が必要な児童への手立て	評価規準 〔評価方法〕
1 導入		
○ 色水と出会う。 ○ 色水をじっくりと見たり、カップを手にとったりする。	・児童の期待感を高めるため、色水のカップを積んだ山に布をかけておき、児童が注目できるように間を取りながら布を取って、一度に大量の色水と出会えるようにする。 ・色水のカップを一つ手に取らせて、じっくり見ることで、色水の動きや色など感じさせ、材料への興味・関心を高める。	

2 課題の設定		
○ 本時の課題を設定する。	<p>色水を使って、どんな活動ができるか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必然性のある課題にするために、児童自らがやってみたい操作や活動などを引き出し、課題の設定につなげる。場所の要素は、児童から出にくいと考えるため、指導者から提示する。 	
<p>たぐさんの色水を並べたり、重ねたり、やってみたいことをしたりして、理科室だからできる活動を考えよう。</p>		
○ 授業の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容を把握させるために、理科室の様々な場所に色水を固めておいておき、児童が自ら色水を見つけて活動することを確認する。 ・児童に、普段とは異なる雰囲気を感じさせ、場所に働きかける意識を高めさせる。 ・色水の色や色の感じ、動き、透過性などの美しさに気付かせるため、新しい色の色水の作成は行わないことを確認する。ただし、児童の要望があれば、用意した色水同士の混色は許可する。 	
3 活動		
○ 色水入りのカップを並べたり、重ねたり、色の配置を考えたりし活動する。	<p>◆活動に悩んでいる児童には、色水の入ったカップを手持たせ、いろんな角度から見て、活動のアイデアを思い付くきっかけを与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に友人の活動を鑑賞し、対話するきっかけをもたせるために、児童の活動を肯定的に評価し、対象の児童以外にもそれが意識できるような声掛けを行う。 ・理科室全体に働きかける色水で雰囲気を変えることができるようにするために、材料を十分に与え、活動が滞ることを防ぐ。 ・活動場所の制約をせず、児童に自由な発想で活動できることを保証する（床や窓の棚など）。 ・児童が、友人や自分の活動を視点をもって見ることができるようにするために、①色水（材料）自体の特徴に関わる活動、②色水のカップ同士の関係性やカップの操作に関わる活動、③場所に働きかける活動の3つの視点で、児童の活動を価値付ける。 ・積極的に児童の活動を価値付け、自己の活動に自信をもったり、積極的に友人の活動を取り入れたりできるようにする。 	<p>色水进行操作して、思い付くものをつくったり、やってみたい活動をしたりしている。 〔行動観察、発言、ふりかえりカード〕</p>
4 振り返り		
○ 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人や指導者から受けた肯定的な声掛けを想起させ、児童が自信をもてるようにする。 	
<p>【児童の振り返りの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色水のカップを重ねて揺らしたら、全部同じように揺れて、色水だけでこんなにきれいに表せることを初めて知りました。 ・日光が当たるときらきらして、棚に映ると色水の色をそのまま映して面白かったです。 ・理科室全体にいっぱい色水のタワーができていつもと違う感じが面白かったです。 		
5 まとめ		
○ 本時の学習の活動の価値を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動、発想を肯定的に評価し、児童に自信をもたせる。 	

板書計画

課 たくさんの色水を並べたり、重ねたり、やってみたいことをしたりして、理科室だからできる活動を考えよう。

学習の流れ

①課題

②活動

9:50~10:25

③ふりかえり

色水のカップを重ねて見たらきれいだよ。

重ね方がおもしろいね!

理科室が水族館みたいになったね!

場の設定

黒板

机

*初めに示す材料の山を置いておく。

窓際の棚

*引き出しの中に、ピーカーや丸底フラスコなど活動に利用できそうな用具を用意しておく。

児童



児童

児童

児童



児童

児童

